



INGING MOTORSPORT.



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp]

INGING NEWS PAPER 2014 VOL.02

INGING NEWS PAPER VOL.02 [インギング ニュースペーパー]

Congratulations! 3位表彰台獲得!!

目標は表彰台と思っていたので、先ずは目的を達成できました。

Race Report Round.1 SUZUKA CIRCUIT 4/13 Final

決勝 2014年4月13日 鈴鹿サーキット



SUPER FORMULA FUJI SPEEDWAY 5/17-5/18

Support by cyber net

発行：株式会社サイバーネット 西日本事務局
2014年05月発行 通巻2号 〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-12-5 難波南ビル5F

CONGRATULATIONS

石浦復帰初戦で3位入賞

Race Report 決勝 2014年4月13日 鈴鹿サーキット
Round.1 SUZUKA CIRCUIT 4/13 Final
 天候:薄曇り | コース状況:ドライ 決勝 [43 Laps : 249.701 km]

シーズン開幕戦で、これが復帰初戦

石浦宏明が快走、6番手グリッドから着実にポジションを上げ3位でチェッカー、表彰台を奪った。一方、国本雄資は速さを見せたものの、予選と同様不運な流れに翻弄されてしまい、クラッシュでレースを終えることになった。

予選と同様、日曜日は晴天で明けた。午前9時05分から35分間のフリー走行セッションが行われた。このセッションでは各チームがそれぞれのメニューで走っているから、このタイムのみで決勝を占う訳にはいかないが、フリー走行が良ければ自然、大きな手戻しを恐る必要はない。P.MU/CERUMO/INGINGの2台はセッションの最後までマシンを回し続けた。決勝レースが近づくと、空には白い音が広がっていったが雨の心配は全くない。予選はスタート、コンディション的には曇り/ドライ、気温と路面温度も16℃/20℃前後で安定していた。新システムであるハンド・クラッチを使うこと



ダブルピットインを余儀なくされた国本

不運な流れに翻弄されレースウィークを終える...

チームはとっさに判断して7位走行中の石浦と8位走行中だった国本を同時にピットインさせることになった。もちろん、2台のルーティンピットを同時にすることは不可能で、石浦の36周目の作業が終わるまで国本はピットロードで待たされることになり、大きなタイムロスを喫することになった。ただし、もう1周ピットインを遅らせていても最後まで後退したとは明かされておらず、これはもう不運と割り切らなければならない。決勝レースがスタートした時点で、中継とド・オリベイラはまだピットインを済ませていなかったから、石浦は単車、5番手を走ることに。ライバルもペースダウンしてくるが、石浦のペースは落ちることなく、コース上の誰よりも速いペースで周回を続けること

Driver Number **38**
石浦 宏明 H.ISHIURA

スプリントに比べると、ダラダラの方が前を行くマシンに近付いた時に手を乱すことが少ないですが、でもやはり簡単に追いつくことはできないですね。特に鈴鹿ではオーバーテイクシステムの効果を発揮させてくれて、レース中、5回だけ使用できる)オーバーテイクシステムを使い切ってしまったのは少し悔しかったです。ただ、僕のクルマはリアタイヤに良いセッティングだったから、他のクルマがリアタイヤが弱くなって来た時に、僕は引くこともなくオーバーテイクでき、3位表彰台を奪うことができた。開幕初戦で、目標は表彰台と想っていたので、先ずは目的を達成できました。(表彰台が外国人ドライバーに占取られるのを防ぐことも出来、それも嬉しかったですね。次の富士は、僕が得意なコースです。クルマは変わりますがチームにはデータも充分あって去年もスプリントカーで日本を優勝しています。今週は開幕初戦で表彰台に乗って、倍々動かせるようになったと思いますが、次回は(優勝しても)と聞かせたいと思います。

Driver Number **39**
国本 雄資 Y.KUNIMOTO

この週末は決して悪かったのですが、やはり予選がすべてでしたね。今年のダラダラは、去年までのスプリントに比べて(エンジン)の振りが少ないですね。ピットインで最後尾まで後退しましたが、そこから1台、また1台とバウンスアップしてポジションを上げる事ができました。でも朝の雨が、エンジンを使わずにマシンと争ってはいないで、ハッキリ断言できる訳じゃないです。悔しい結果に終わりましたが気持ち切り替えます。次の富士は去年(特別製の)スプリントカーで勝っているサーキットで、テストでも良い手戻しを稼いでいます。今回はチームが用意してくれたクルマを1台だけで持つていくことができ、(クラッシュで悔しい結果を叩いた)の次に、少しだけ(ドライバー)が良いのでクルマを調子を整えて良い気持ちでレースして、表彰台を目指したいです。

Team director
立川 祐路 Y.TACHIKAWA

38号車は今週良い流れで、石浦の復帰初戦で表彰台を奪うことができて、良かったです。ドライバーはもちろんですが、メカニックもエンジニアも、チームのスタッフ全員が良い仕事をしてくれました。それが結果に繋がったのだと思います。マシンが一車だけで開幕初レースで、高負荷で走っている皆さん、まずは表彰台という結果をお届けできて良かったです。どうもありがとうございます。その一方で39号車も、予選まで上手くいってなかったんですが、決勝ではペースも悪くなかった。ほとんどオーバーテイクして順位を上げて行ったんですが、セーフティカーが入って台車時にピットインになってしまいました。結果的に国本の方が脚を奪った格好になりました。ただレースの性格としては、あきらめるしかなかったし、ポジション的に近いところを走っていたので、よりタイムロスも大きかった。それでも国本は、ピットアウト後も頑張ってポジションを上げて行ってくださったんですが、最後は追い上げてきたマシンと接触、コースアウトしてレースを終えることになりました。悔しいクラッシュだったんですが、先ずは国本が大した怪我もなかったことは幸いです。クルマは調子ができるので、次回は富士までにはちゃんと調子で、良いレースができるように準備します。